

根を張ってこそ花が咲く

アピオス・みの〜れ・コスモスを核とした文化のまちづくり



第 2 次



小美玉市まるごと文化ホール計画

2022-2031



第2次小美玉市まるごと文化ホール計画

はじめに

この第2次小美玉市まるごと文化ホール計画は、小美玉市公共ホール運営委員会より付託を受け、第2次小美玉市まるごと文化ホール計画策定プロジェクトチームにより策定されたものです。

21世紀における日本の文化政策は、日本文化の創造と発展、より豊かで魅力のある社会創造、そして新しい経済的価値を育むことを政策課題として追究し、文化の力を地域の持続的な発展につなげることが必要とされています。また、文化政策の企画立案、実施にあたっては、より広く地域のニーズや民意を反映し、効率的かつ効果的な運営が求められています。

文化芸術は、人間が人間らしく生き、人びとと社会の活力を高める重要な役割を担っています。社会の特殊な一部分ではなく、新たな価値を生み出す社会資源の一つとしてとらえることが必要です。人間は、衣食住や経済活動のみによって生きられるのではなく、日々あらゆる文化活動を通して内面的な欲求を満たしています。心を躍動させる音楽との出会い、絵画や彫刻から受ける感銘、このようなことを誰しも経験しながら、精神的な喜びを得るとともに創造性を養っています。

文化政策は、文化芸術の振興や文化遺産の保存、継承に加えて、文化施設とまちづくりとの連携や歴史文化遺産を活用した交流人口の拡大など、多岐にわたる実践的課題を対象として行われる必要があります。そうすることで、文化資源を地域活性化やブランディング、ひいては地域の持続的な発展につなげることができると思います。

いつの時代も子どもは社会の宝です。社会環境や価値観次第で伸びる特性が変わり個性が育まれます。子どもの健やかな成長は社会に活力を与えます。幼少期から良質の文化芸術に触れる機会をつくることで、好循環で若い世代の成長を促し、中長期的な住民力の育成につながられます。

また、地域コミュニティとそこに住む人の日常生活に密着し、公共政策学や公共経済学に理論的基礎をおきつつ、マネージメント、マーケティング、オペレーションズ・リサーチなど他分野での研究成果を参照しながら科学的分析をおこない、定量的評価法も応用しながら実務関係者、団体との密接な連携の下、具体的かつ実証的に文化政策の課題を検討する必要があります。

小美玉市では、市民一人ひとりが豊かでゆとりある文化的な生活を享受できる社会を目指し、誰もが気軽に真の文化芸術に触れることができ、さらには、市民が主体的に文化活動に参加・参画できる環境の整備充実を図ることを基本方針に、文化振興を図っています。これまで第1次小美玉市まるごと文化ホール計画（2012年～2021年）のもとに推進した結果

- ① 住民主体の文化活動を支える拠点づくり
- ② 生活に関わる社会活動を育てる土壌づくり
- ③ 市職員のプロデュース・コーディネート力を育成する拠点づくり
- ④ IT技術を活用しながらアウトリーチ型の文化活動を進める拠点づくり

などの特徴的活動が生まれ、住民が主役となって事業を推進するかたちが根付き始めました。

第2次小美玉市まるごと文化ホール計画（2022年～2031年）は、今後10年間を意識しながら「3館の個性」を捉え、住民とともに歩む持続可能な豊かな文化のまちづくりを目指して、住民をはじめさまざまな文化活動に関わる人びとで構成した「第2次小美玉市まるごと文化ホール計画策定プロジェクトチーム」を2020年10月に結成し、11回の会議を重ね、この計画をつくりました。

新たな計画においても、引き続き「住民一人ひとりが主役」となって力強く企画運営し、あらゆる関係者の支えで発展してゆく姿を構築できるよう、「根を張ってこそ花が咲く」の理念のもと、戦略・方策・活動計画を策定しています。

第2次小美玉市まるごと文化ホール計画は、これからの小美玉市文化振興の礎かつ羅針盤となる重要な計画です。

計画書目次

はじめに	1
ピラミッド・ツリー構造図	
1. 計画の全体構造	3
理念	
ミッション	
ビジョン	
3館の個性	
2. 戦略／方策／活動計画	5
小美玉市の目指す文化のサイクル	
戦略A 集める	
戦略B つなげる	
戦略C 広げる	
戦略D 深める	
戦略別広報	
将来像	24
資料編	25
小美玉市公共ホール運営委員会	
第2次まるごと文化ホール計画策定プロジェクトチーム	
計画策定経緯（会議開催状況・記録写真）	
プロジェクトチームメンバーコメント	
資料集	
用語集	